

令和 5 年度

伊万里・有田圏域二級水系流域治水協議会

伊万里・有田地域の県管理河川大規模氾濫に関する減災対策協議会

2 市町の実施について

- ・伊万里市
- ・有田町

■伊万里市防災パトロール【伊万里市】 継続

- 地元から提出された災害危険箇所の調査を行い、雨季前に危険箇所の状況や今後の対応などについて地元と共有を図った。
- 市、伊万里有田消防本部、伊万里警察署、伊万里農林事務所、伊万里土木事務所、地元区長などで災害危険箇所の現状把握を行う伊万里市防災パトロールを行った。



黒川町立川(水門)で説明を受ける様子



黒川町立川(水門施設内)で説明を受ける様子

■伊万里市防災パトロールによる効果

- ① 雨期前に市、行政区双方で災害危険箇所を把握することで、災害被害の軽減が期待できる。
- ② 災害対応における防災関係機関相互の協力体制の確認を行うことができた。

■今後の取り組み

- ① 継続実施する。

①水防意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【防災意識の啓発】

■市ホームページ、広報紙等を活用した防災に関する啓発活動 【伊万里市】

継続

【出前講座】

- 各種団体等からの申込みにより出前講座を実施。
- 令和5年度は8団体195名に対して市の防災体制や平時、災害時の市民の対応等について説明した。
- 山代町の区長会で「マイ・タイムライン研修」を行い、避難の際にスムーズに行動できるよう説明した。

【市ホームページ】

- 自然災害全般に関することや、河川・土砂災害のハザードマップなどを掲載している。

【広報紙等】

- 6月号の「広報いまり」に防災特集を掲載し、災害時や緊急時の情報伝達手段など市民に周知した。



市民が避難所の資機材を設営している様子(出前講座)

【避難行動計画】 わが家のマイ・タイムライン作成シート

台風や大雨などは、事前に進路や規模が予測できるため、接近時の計画を立てておくことで適切な避難行動に繋げることができます!!
台風や大雨時における一人ひとりの避難行動計画を立てましょう。

	防災マップでチェック	家庭の状況のチェック	避難行動の検討
自分自身の地域を再確認しよう!	あなたの住んでいる地域は? <input type="checkbox"/> 浸水想定区域 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒区域	避難に支援を必要とする人 (高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	警浸 或水 区想 域定 内・ で土 砂 あ る 災 害
	住んでいる場所の浸水深は? (想定最大規模) 例: 伊万里川3~5m [川、m]	ペット: <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	いいえ はい: 建物が高さ2階建て以上の建物 はい: ハザードマップの最大浸水深等を考慮すると、垂直避難で安全が確保できる。
			いいえ → 屋内避難 はい → 垂直避難 (避難所以外) いいえ → 水平避難 (避難所等)

【マイ・タイムライン】			
警戒レベル	レベル1	レベル2	レベル3
行政からの情報 等		●自主避難など注意の呼びかけ	●高齢者等避難
警戒レベル 相当情報 等	●大雨になりそう	●大雨注意報、洪水注意報 等	●冠水警戒情報、大雨警報・洪水情報 等
		●避難指示	●冠水危険情報、土砂災害警戒情報 等

■ 出前講座、市ホームページを活用した防災に関する啓発活動による効果

- ① 市民の防災意識や知識の向上に寄与した。
- ② 地域防災力の向上に寄与した。

■今後の取り組み

- ① 継続実施する。

②地域住民・市民団体・関係機関の連携・協働による地域の将来を担う人材の教育・発掘に向けた取り組み【避難場所や避難路の確保】

■避難所運営対策 【伊万里市】 継続

- 雨季前に、指定避難所で避難者の受け入れなど対応を行う市職員に対し、災害配備体制の説明や連絡体制の確認を行うとともに、パーティションや簡易ベッドなどを設置し、災害時の市民の受け入れに備えた。
- 福祉避難所の設営訓練を実施し、連絡体制、避難所開設までの流れを確認した。
- 出前講座において指定避難所で使用する簡易テント、簡易ベッド等の設置方法を説明し、避難所で使用する資機材の設置方法を市民が体験した。



災害配備体制の説明会の様子



福祉避難所避難訓練の様子

■ 避難所運営対策による効果

- ① 職員の災害対応に対する心構えや避難所運営のための対応力向上を図り、円滑な避難所運営に寄与した。
- ② 市民の防災意識や知識の向上に寄与した。

■ 今後の取り組み

- ① 継続実施する。

2. ソフト対策

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【水害リスク情報の共有】

【防災意識の啓発】

①.①水害リスク情報を共有できるハザードマップへの改良と周知及び活用の推進【有田町】

①.③防災意識向上と迅速な避難に役立つマイ防災マップづくりと拡充【有田町】

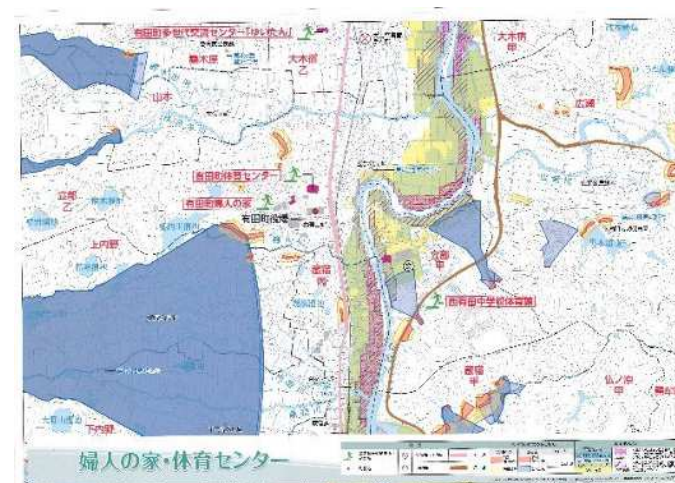
- 平成30年度に町内の土砂災害警戒区域等の指定及び有田川の浸水想定区域の公表が完了し、令和元年度に有田町防災マップを作成のうえ全戸配布し、ホームページでも公開している。
- 町指定の緊急避難場所や自治公民館、消防格納庫、町内の小中高等学校の区域をカバーするA1サイズのハザードマップを配布・掲示して地域のリスク情報を周知している。
- Web版ハザードマップにより自宅や勤務先等必要に応じた縮尺でマイ防災マップが作成可能となった。
- 令和3年度の改訂で、避難情報の更新（避難指示・高齢者等避難…）、ダム（竜門ダム・有田ダム）の越水ハザードマップの追加を行った。



↑ハザードマップ（令和4年2月改訂版）



↑ダムの越水ハザードマップのページ



↑公共施設や自治公民館配布用マップ

成果

- 縮尺が大きくなり、地域の細部まで確認できるようになった。
- 地域防災の中核である消防団格納庫にて地域のリスク情報を把握できるようになった。

課題・今後の予定

- 町民の防災意識を高めるため、今後も住民説明会や防災訓練等の機会を活用し、ハザードマップを利用して、啓蒙活動を行いたい。

2. ソフト対策

- ①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組
- ②地域住民・市民団体・関係機関の連携・協働による地域の将来を担う人材の教育・発掘に向けた取組

【防災意識の啓発】
【長期浸水リスクの周知】

- ①.⑤ ②.⑤水防災教育、出前講座等を活用した講習会の実施【有田町】
- ②.⑦関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化【有田町】
- ②.⑧自主防災組織、水防団、防災リーダーの育成・強化【有田町】

- 地区で開催される会議等において、防災研修を実施した。
- 自主防災組織連絡協議会を結成し、組織間の情報共有体制の整備を図ることにより、町の防災体制の充実強化に努めた。また、消防団や防災士にも呼び掛け、佐賀県（危機管理防災課）と（一財）消防防災科学センターと合同で防災研修会（佐賀県防災啓発研修）を実施した。

成果

- 平常時から「災害時に活動できる自主防災組織づくり」「自主防災組織間の連携」に取り組み、地域住民による避難の呼び掛け（助け合い）に繋げる重要性を学んだ。

課題

- ハード整備により、大規模災害を経験した住民が少なくなっており、逃げ遅れを防ぐためにも防災教育は繰り返し行い、防災意識の啓発が重要である。
- 出前講座等を実施できる職員を養成する必要がある。

今後の予定

- 自主防災組織や消防団、関係機関と連携して、避難訓練や地区防災会議等必要や要請に応じて、出向いて防災教育を実施していく。
- 児童等に対する防災教育も関係機関と連携をとって実施していく。
- 今後も自主防災組織連絡協議会を中心に、避難所運営などの研修を行い、組織間の連携体制及び協力体制の充実強化を図る。



自主防災組織連絡協議会（R5.11.5実施）



佐賀県防災啓発研修（R5.11.5実施）

2. ソフト対策

①水防災意識の向上と防災情報の的確な収集・伝達・理解・共有を推進するための取組

【避難行動に繋がる訓練】

【河川巡視情報の共有】

①.⑬水害リスクが高い区間における地域住民が参加する共同点検や避難訓練の実施【有田町】

①.⑭重要水防箇所共同点検【有田町】

- 区長へ地域の危険箇所について、情報提供してもらい関係機関（平成30年度より伊万里土木事務所からも参加）と合同で、住民立会のもと5月24日（水）に防災パトロールを実施した。地域から要望があった5箇所の確認を実施した。



防災パトロール（5/24（水））の様子

成果

- 雨期前に町と関係機関や地域住民で危険箇所を把握することで危機管理意識を共有できた。

課題

- 民地の管理不足による危険箇所が多く、行政として即座に対応できる箇所は少ない。
- 区長からの情報提供が減っている。

今後の予定

- 今後も情報提供を依頼し、継続して実施する。